勝沼小学校

「自ら考え，進んで表現できる児童の育成」
～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究内容と方法

（1）研究内容

ア　理論研究（算数的活動に関わって）
イ　授業実践および授業公開の実施
ウ　一人一実践の取り組み
エ　児童の実態把握（学習アンケート等）
オ　基礎・基本の定着のための日常的な取り組み
カ　学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み

（2）研究方法

ア　全体研究会とブロック研究会を取り入れた研究体制で研究を行う。
イ　講師を招いて，児童の実態にあった理論研究を行う。
ウ　授業研究をし，授業公開を行う。
エ　児童に，研究内容に関わるアンケートを行い，児童の実態や変容について把握する。
オ　ＮＲＴ検査やＱ－Ｕ調査等から児童の実態を把握し，具体的な指導法を研究する。

2　具体的な取り組み

（1）学び合い活動

ア　問題解決型学習等における学び合い
◇ペア学習・少人数学習から全体へ
→自分の考えを相手に説明する活動

イ　発表時における学び合い
◇小グループでの話し合いから
→グループで意見をまとめる→複数の意見の類似点や相違点に気づく

（2）表現活動

ア　書く活動
◇自分が考えたことを，言葉・図・式などを用いて表現する。
◇自分の考えを，発表ボードなど，ノート以外のものにも書く。
◇学習感想を書く。

（3）掲示物の工夫

ア　授業時に「めあて」と「まとめ」を提示する。
イ　各学級に掲示するものを一部共通化する。

（4）Ｑ－Ｕ調査の結果を分析

ア　全校プロット図の作成
◇第１回の結果を受け，全校児童のプロット位置を確認し，全校プロット図を作成。

イ　各学級ごとのＱ－Ｕ調査の結果を分析
◇ヘルプサイン・ポジティブチェック，Ｋ－ 13 法（簡易版）を取り入れたＱ－Ｕ調査の結果の分析を実施。ブロック研究会ごとに検討会を行い，各学級の実態に応じた取り組みを実践。

3　具体的実践

（1）学習会

「表現する力（書くこと，ノート指導）に焦点を当てて」
講師：山梨大学大学院　一瀬孝仁准教授

（２）実態調査
　　５月　　算数科に関わる学習アンケート１回目実施
　　１２月　　算数科に関わる学習アンケート２回目実施
（３）授業実践
　ア　研究授業
　　・第１学年　岡ひさ江教諭　　算数科　「たしざん」
　　指導助言：義務教育課主幹・指導主事　小池孝二先生
　　・第５学年　倉田和美教諭　　算数科　「面積の求め方を考えよう」
　　指導助言：峡東教育事務所指導主事　三森公仁先生
　イ　授業公開（一人一実践）
　　・第２学年　金井　京子教諭　　算数科　「かけ算」
　　・第３学年　中村　亮二教諭　　算数科　「はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って」
　　・第４学年　佐野　誠一教諭　　算数科　「小数のしくみを調べよう」
　　・第６学年　古屋　ゆか教諭　　算数科　「順序よく整理して調べよう」
　　・たんぽぽ　堀内　友貴教諭　　算数科　「図形の角を調べよう」
　　・コスモス　相川　和彦教諭　　算数科　「かけ算」「同じ数に分ける」
　　・教務　　内田　俊彦教諭　　理　科　「電気と私たちのくらし」

Ⅱ　成果と課題

１　成果
（１）講師を招いての学習会は授業づくりや板書，ノート指導について，具体的でわかりやすく，実践に結びつく内容を教えていただき，研究を深めることができた。
（２）授業における「めあて」と「まとめ」の提示，また「甲州市 Teacher’s Note」を活用した実践について共通理解を図ることにより，同一歩調で学力向上に向けての指導ができた。
（３）発表用のホワイトボードを授業の中で効果的に活用したことにより，書いて表現する力が向上したと思われるとともに，意見の共有化にも有効であった。
（４）Ｑ－Ｕ調査の結果をＫ－１３法を用いて大勢で分析することにより，学力向上や日々の学級経営，また多方面からの個への支援に効率的に生かすことができた。
（５）ペア学習やグループ学習などの学び合い活動や，発表の仕方を工夫した表現活動などに日常的に取り組んだことで，それらが児童に定着してきている。
（６）研究授業では，授業者が研究の視点や方向性を意識した授業展開を図り，どちらも検証授業として生かされる内容で，日々の実践に役立てることができた。
（７）一人一実践の取り組みでは，様々な授業を参観することができて，手立てや指導法など，教職員の学び合いの場として大変有効な機会となった。
（８）２度にわたる学習アンケートやＱ－Ｕ調査の実施により，児童の実態や変容を把握することができたことは，大変有意義で，以後の対応や指導に役立てられた。

２　課題
（１）「自ら考え，進んで表現する力」をさらに高めるとともに，個への効果的な支援について，より具体的な手立てや指導法の研究を深める。
（２）学習習慣や学習規律の統一感をもった定着，また家庭学習を定着・発展させるための取り組みを工夫していく。

Ⅲ　成果物

１　研究授業及び公開授業の指導案９点
２　算数科に関わるアンケート結果（２回実施）
３　Ｑ－Ｕ調査の結果（２回実施）および全校プロット図

（研究主任　金井京子）